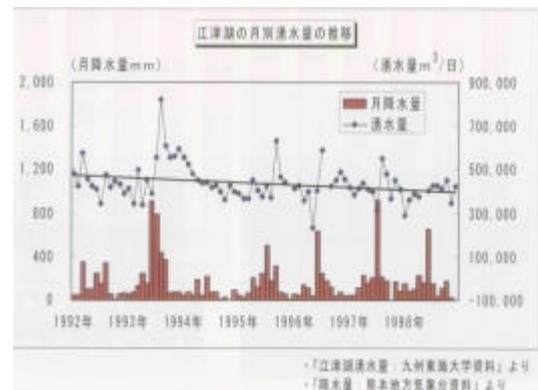


<トピックス> 地下水函養に新しい風

熊本県を流れる白川は、阿蘇外輪山を源流として有明海に注ぐ流域面積480km² 幹川流路延長74kmの一級河川である。

熊本市をはじめとする白川の下流部（熊本地域）では、古くから湧水等も多く地下水が豊富である。このため、生活用水をはじめとする地下水への依存率が非常に高く、上水道の1人1日平均給水量は九州の平均と比べても多い。近年地下水位の低下が顕在化してきたこともあり、地下水位回復のための取組として、水田を利用した地下水函養の試みが実施されているので紹介する。

この取組は、受益地である下流部の熊本市と中流部の大津町、菊陽町、水循環型営農推進協議会が、熊本県を仲介に締結した協定にもとづき、水田に水を湛める農業活動をとおして地下水函養を促そうとするものである。5月～10月間の1～3ヵ月湛水する事に対し下流市は助成金を支払う仕組みとなっている。



白川中流域の写真等資料提供：熊本県土地資源対策課